



蘇峰・蘆花生家前の町並み(右奥が源光寺)

町並みについて

- ◆ 浜町地区は昭和初期までは二つの川に挟まれた中州で、水俣市の中心地区として栄えた商人町です。地区内には、徳富蘇峰と蘆花生の生家があり、その徳富家は津奈木の総庄屋も務めていました。また、張り巡らされた水路や路地は往時の面影を残しています。
- ◆ 蘇峰・蘆花生の生家の近くには、加藤清正の従兄弟にあたる水俣城代の中村将監が祖といわれる源光寺(浄土真宗)があります。同寺の本堂裏には、浄土真宗を弾圧していた薩摩藩から訪れた信仰者を匿うための隠し部屋「薩摩部屋」が残っており、国境の町としての歴史を今に伝えています。



町並みの中心(核)となる伝統的建造物

徳富蘇峰・蘆花生家

熊本県指定史跡

- ◆ 蘇峰が7歳、蘆花が2歳までの幼少期を過ごした生家で、蘇峰著の「蘇峰自伝」、蘆花生著の「死の蔭に」に登場する由緒ある白壁土蔵造りの建造物です。
- ◆ 主屋(寛政2年建築)の町屋造りは、年代がわかるもののうち熊本県内最古とされ、江戸中期の商家として建築史的にも高い価値を持ち合わせています。財力を誇った同家の主屋と土蔵は、貴重な建築材であった楠たぶの木がふんだんに使われており、重厚さが際立っています。



蘇峰・蘆花生家建屋からみた中庭

蘇峰・蘆花生家の庭の片隅には、蘇峰の師である新島讓もその白い花を好んだといわれるカタルパの木が植えられています。静寂な佇まいの樹影がある庭を眺めると、明治から昭和の激動の時代を駆け抜けた蘇峰と蘆花生の生涯に想いを馳せることができます。